

大雪山国立公園 東大雪地域 登山道関係者による情報交換会
議事概要

■日 時：平成 29 年 1 月 31 日（火）13:00～15:00

■場 所：十勝総合振興局 4 階 C 会議室

■議事録

1. 開会

2. 挨拶

（上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官）

- ・ 昨年は「山の日」が国民の祝日として始まった最初の年だったが、台風災害により多くの山に登れなくなってしまい、十勝の山にとっては大変な一年になってしまった。
- ・ 本日は各団体の今シーズンの活動内容に加えて、台風による被災状況や復旧見込みについても情報共有を行い、来シーズンの活動等について考える機会としたい。

3. 情報交換

○ 各団体の平成 28 年度活動内容について

- ・ 十勝総合振興局、上川総合振興局、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、ひがし大雪自然ガイドセンター、新得山岳会、十勝山岳連盟、山のトイレを考える会、山樂舎 BEAR、上士幌自然保護官事務所より資料 1～9 に沿って説明。（欠席した大雪山国立公園パークボランティア連絡会については上士幌自然保護官事務所より資料 8 を代読。）
- ・ 資料に記載された内容の他に説明がなされた内容は以下のとおり。

（上士幌町）

- ・ 資料 1 に記載している作業はすべてひがし大雪自然ガイドセンターへ委託して実施している。

（鹿追町）

- ・ 昨年度に発生した風倒木により、今年度当初は白雲山士幌コース以外の登山道が通行できない状態だった。然別自然休養林保護管理協議会の予算のみでは対応できなかったことから、環境省や森林管理署にも協力いただき、風倒木処理を行ったところ。西ヌプカウシヌプリの山頂付近以外は、すべて処理が完了している。
- ・ 風倒木処理の対応があったため、今年度は一般町民も含めた合同でのササ刈り作業はできなかったが、来年度は従来どおり実施したい。

（ひがし大雪自然ガイドセンター）

- ・ 上士幌町からの委託によりニペソツ山と石狩岳の登山口のトイレ清掃を行っているが、

台風災害により登山口までのアクセスができなくなってしまった。石狩岳登山口のトイレについては土砂に埋まってしまったため、来年度以降の対応を関係者と相談したい。

- ・白雲山、天望山、東雲湖の登山道整備については、当初実施予定はなかったが、台風災害によりニペソツ山等へのアクセスができなくなったため、実施箇所を然別湖周辺に振り替えたもの。
- ・東雲湖付近は昨年度の風倒木に伴う根返りで、一部登山道がわかりづらい箇所がある。将来的には何らかの対応が必要かもしれない。

(新得山岳会)

- ・8月6日にはトムラウシ山短縮コース登山口で、環境省とともに携帯トイレの普及活動を実施した。

(山のトイレを考える会)

- ・当会のリーフレットについては、活用したい団体があれば無償提供できるので、事務局へ連絡いただきたい。
- ・台風による石狩岳登山口のトイレの被災については上士幌町から連絡をいただいております、トイレマップ上の表記方法について検討中である。他にも類似の状況が発生したら、都度連絡をいただきたい。

(山樂舎 BEAR)

- ・「たまには山へ恩返し」は一般登山者からの「登山道維持管理のために自分たちも何かしたい」という声を受けて始めたもの。最初の平成23年には侵食の進む箇所の巡検を一般登山者とともにを行い、翌年からは北海道山岳整備の指導のもと、導流工等の施工も行うようになった。昨年度からは上川総合振興局との共催で実施している。
- ・昨年度は参加者25人、うち一般登山者が10人、今年度は参加者32人、うち一般登山者が14人だった。
- ・これまでの反省点を踏まえた今年度の改善点として、参加者を手持ちぶさたにしないよう、事前準備を入念に行った。まず当方と上川総合振興局、環境省での机上の打合せを行い、班分けと班長決めを実施、その後に班長も含めて現地下見を2回行って施工のイメージを共有した上で当日に臨んだ。当日は北海道山岳整備から施工内容の詳細なイメージ図を配布し、各班長の指示のもと施工を行うことで、良い作業をすることができた。
- ・協賛者としては、モンベル大雪ひがしかわ店から手ぬぐいを提供いただき、参加者に配布した。また、北海道山岳整備からはトマトジュースの提供があった。資金面では、施工に用いるヤシネットの購入代金を旭岳ファンクラブ環境保全基金から提供いただいた。
- ・実施箇所の裾合分岐付近で、階段が壊れていたり植生ネットが剥がれているなどの状態を目撃したら、当方や上川総合振興局、または北海道山岳整備に連絡いただければ補修を実施する。

(上士幌自然保護官事務所)

- ・7月8日のニペソツ山でのササ刈りについては、十勝西部森林管理署東大雪支署、十勝総合振興局、上士幌町、ひがし大雪自然ガイドセンター、大雪山国立公園パークボラン

ティア連絡会に参加協力をいただいた。

○ 話題提供

● 台風による登山道等の被害状況について

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

- ・資料 10 に沿って、主に登山道に関する被害の状況を説明。
- (十勝西部森林管理署東大雪支署 日野事務管理官)
- ・資料 11 に沿って、登山口へ至る林道の現況と来年度の復旧予定について説明。

<質疑応答>

(上川総合振興局 佐藤主査)

仮に来年度、順調に復旧作業ができた場合、ユニ石狩岳登山口までの開通時期はいつ頃になるのか。表大雪側からの登山者が縦走してくることも想定されるため、登山口までの復旧が完了するまでの期間は、下山に利用できない旨を山中でも注意喚起しておく必要があると考えている。

(十勝西部森林管理署東大雪支署 日野事務管理官)

できても秋頃ではないかと考えている。予算状況等によっては複数年での復旧となることも想定される。登山者への注意喚起に関しては、上川中部森林管理署とも連携しながら対応したい。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

十勝岳新得コース登山口までの開通も同様に、できても秋頃になるのか。

(十勝西部森林管理署東大雪支署 日野事務管理官)

そうなると思う。

● 登山者数の推計について（東大雪地域）

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

- ・環境省では一部の登山口にカウンターを設置し、登山者数の計測を行っている。また森林管理署でも入林簿への記入という形で数字をとっており、それらの結果をまとめたものが資料 12 である。
- ・カウンターは誤作動もあり、必ずしも正確な登山者数をとらえているわけではないが、登山利用の季節変化等の傾向は読み取れると思うので、各団体の活動の参考としていただきたい。

(上士幌自然保護官事務所 上村自然保護官補佐)

- ・資料 12 に沿って説明。データに関する考察については、トムラウシ山短縮コースのみピックアップして紹介。主な点は以下のとおり。
- ・東大雪地域全体の入山者数は 6,973 人。入山者数が多いのはトムラウシ山短縮コース登山口、次いで白雲山鹿追側登山口であった。

- ・ 8月中旬以降、台風災害により多くの山が行けなくなる中、被災のなかった然別湖周辺の山々への入山が目立った。
- ・ トムラウシ山短縮コースについては、日別では海の日連休の入山が非常に多かった。曜日別ではもちろん土日が多いが、平日との差は他の山と比べると小さい傾向があった。
- ・ 他の登山口についても同様の考察をしているので、後で資料を確認いただきたい。

<質疑応答>

(十勝総合振興局 富樫課長)

各登山口での計測は今後もずっと継続していくのか。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

カウンターについては、少なくとも現在設置している登山口については継続していきたい。

(十勝山岳連盟 齊藤会長)

トムラウシ山へは9月10月とずっとアクセスできなかったのか。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

トムラウシ温泉までは確か9月27日に開通し、入山もあった。なおトムラウシ山については例年だと2,500~3,000人程度の入山がある。

(上川総合振興局 佐藤主査)

昨年度の数字として入山2,657人、下山3,153人とあるが、単純に考えると500人くらいは別の登山口から入山して新得側に下りていることになる。それがどこから入ってきているのかを表大雪側の登山口の数字も含めて考察してみるとおもしろいかもしれない。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

理想を言えば、どの登山口から何人入山してどのような行程で動いているのかを追えるといいのかもしれないが、難しい。

(上川総合振興局 佐藤主査)

10年ほど前にヒサゴ沼に長期滞在して登山者の利用状況調査をしたことがあったが、そのときも利用のピークは海の日連休で、今回のカウンターの結果から読み取れる傾向と同じである。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

海の日連休がピークになる傾向は石狩岳もウペペサンケ山も同様で、ニペソツ山だけが海の日連休の1週間前にピークとなっていた。

(上川自然保護官事務所 梶首席自然保護官)

すべての登山口やルートについてそれぞれ何人利用していたかというような形で、登山者の行動を突き詰めて追っていくことは相当難しい。一方で国立公園の管理上、おおよその傾向や数字は把握しておきたいという考えのもと、できるだけ小さい労力でそれら

のデータを得るため、カウンターによる自動計測を導入したところであり、現在は試行錯誤の段階である。カウンターによる計測は、基礎的データの収集ツールとしては有用なので、継続して実施していきたいが、登山者の正確な行動ではなく、あくまでおおよその傾向を把握するものとしてご理解いただきたい。

また、今後、登山道関係者のみではなく一般にも公表していくことを考えたときに、一桁台まで出してしまうと数字が一人歩きしてしまう懸念もあることから、入山者数の公表の方法については、現在検討をしているところである。ゆくゆくは表大雪と東大雪を合わせて情報を整理し、一般に公表できればと考えている。

(自然公園指導員 山名氏)

カウンターのデータと入林簿に記入した人数の間には、どのくらい差があるのか。

(上士幌自然保護官事務所 上村自然保護官補佐)

ニペソツ山については上士幌町観光協会が設置している登山者名簿と詳細に見比べたが、カウンターの数字に比べ登山者名簿への記入は7割くらいだった。なお、カウンターは野生動物にも反応するため、時間帯的に明らかに登山者ではないと思われる計測については除外している。

(新得山岳会 小西会長)

トムラウシ山短縮コース登山口で見ていると、7割くらいしか入林簿には記入していないので、この場所についてはカウンターの方が多くなっていると思う。

(上士幌自然保護官事務所 上村自然保護官補佐)

確かにカウンターが多かったが、誤作動等別の要因も多くあるように思う。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

カウンターの精度についてはまだ疑問も多く、数字を100%信頼することは危険である。同じ場所、同じ方法でデータをとっていくことで傾向を把握するためのツールであると思っている。

(山のトイレを考える会 小枝副代表)

北海道地方環境事務所として、道内で設置しているカウンターのデータの評価方法の統一はされていないのか。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

されていない。前任地の稚内自然保護官事務所でもカウンターを用いて利尻山の登山者数の計測を行っていたが、今回と同じように結果をとりまとめ、登山道情報交換会の場で、関係者へ共有を行っていた。広く一般への公表は行っていなかった。

(山樂舎 BEAR 佐久間代表)

環境省で、入山口や山頂などにQRコードを設置しておき、スマホをかざすことで行動経路を追えるようなアプリを作れないのか。南アルプスでは、そこまではできなくても近

いシステムがあったように思う。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

現時点ではできないと言わざるを得ないが、アイデアとしてはおもしろく、将来的に検討する価値はあるかもしれない。

(山樂舎 BEAR 佐久間代表)

最近層雲峡ビジターセンターでは、特に外国人から、スマホでトラックするために電子の地図をもらえないかという問い合わせが多くある。遭難防止の観点でも、入山届等の各仕組みの電子化が今後必要ではないかと思う。

(十勝山岳連盟 齊藤会長)

最近紙の地図を読めない登山者が多い。そもそも等高線が入っていない地図しか持ってきていない人もいる。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

地図を読めない、持っていない登山者は若い人が多いのか。

(十勝山岳連盟 齊藤会長)

60～70代くらいでもかなり多い。

● 登山道等に関する現状と課題の共有

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

- ・資料 13 に沿って説明。
- ・登山道等に関する課題を広く関係者間で共有し、少しずつでも対処していくために図化した。毎年更新し、情報交換会の中で共有を図っていきたい。

(上川自然保護官事務所 榊首席自然保護官)

- ・補足だが、表大雪側でも同様の資料を作っている。このように図化することで関係者がどのような問題点に関心を持っているか、また、最新の状況について、具体的に共有できるメリットがある。お気づきの点があればぜひ上士幌自然保護官事務所への情報提供にご協力いただきたい。

4. その他

(鹿追町 大西氏)

然別湖周辺の登山道について、国土地理院発行の地形図とずれている箇所がある。国土地理院からは、GPS を自治体に貸与するので正しい登山道のログをとってもらえれば地形図を修正する旨話があったため、この場でみなさんにも情報提供したい。

(鹿追町 大西氏)

登山道の補修について、一抱えくらいの規模の施工であれば手続きがいらぬというような話を聞いたことがある。然別湖周辺の登山道も洗掘が進んでいる箇所があるので補修をしたいが、法令手続きとして必要なものを教えていただきたい。また、国や道の方

で、もし協働型の登山道補修について使える補助金等があれば、随時情報提供いただきたい。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

自然公園法上は、まず事業執行が必要。湖畔園地等と同様に、まず誰かが管理者になる必要がある。東大雪地域は事業執行者が不在の登山道が多く、大きな課題となっている。

(十勝西部森林管理署東大雪支署 日野事務管理官)

一抱えというより点的な行為であれば手続きがいらない場合もあるが、ケースバイケースである。保安林作業行為に関しては北海道が権限を持っているので、北海道の見解もある。この場でこれは良くてこれは悪いということは示せないなので、個別に相談いただきたい。

(上川総合振興局 佐藤主査)

上川総合振興局の事業による登山道補修は、すでに一度、北海道が整備の手を入れた箇所を対象としている。自然公園法上の事業執行者としての維持管理作業の一環として行っているものである。ただし表大雪でも同様に、侵食は進んでいるが法令関係の手続きが追いついていない箇所はあり、それらの整理を進めていかなければならない時期に来ているように思う。

(十勝山岳連盟 齊藤会長)

東ヌプカウシヌプリ等では倒木をくぐっていったりしなければ進めない箇所もあり、将来的には登山道の迂回等も必要かもしれない。山の状況は刻一刻と変わっていくので、法令の整理を待っていると、対処がなかなか追いつかないように思う。そういったことも含めて対応を考えていく必要があるのではと思う。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

登山道補修については多くの方がやりたいと言ってくれており、それは大変ありがたいことと思っているが、法令手続きの関係が追いついていないのが現状であり、心苦しく思っている。今後それらを整理していき、正々堂々とした登山道管理ができる体制作りを目指していきたいと思うので、引き続きご協力をよろしく願いたい。

(自然公園指導員 山名氏)

所属している富良野山岳会のことを紹介したい。当会では富良野市から委託を受けて登山道整備を行っている。また当会が昔からずっと架けてきた、原始ヶ原へ至る登山道上の丸太橋の材料は、森林管理署との協議のもと提供いただいております、富良野市と森林管理署との協力関係のもと現在まで実施してきている。しかしながら、一体いつまで当会で丸太橋を架け続けるのかというのが大きな課題になっている。できれば恒久的な橋を整備してほしいが、環境省からは許可が下りないという話もされているところ。作業に出た会員には日当を出しているが、やはりボランティアでの作業ではなかなか続けることができないものと思う。

(ひがし大雪自然ガイドセンター 河田代表理事)

ニペソツ山幌加温泉コースの供用再開の可否についてはどうなったのか。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

当該コースについても事業執行がされていない問題があるが、今回は台風災害による特例的な措置として、ササ刈り等の作業に係る自然公園法の申請を適切に出していただければ、許可をする方針となった。ただしその後の管理や、野営指定地、トイレの問題等詰めていかなければならないことが多くあるので、引き続き関係機関と協議をしていきたい。

(上士幌町 伊藤主任)

台風災害により現在上士幌町では登山口までアクセスできる山がない状態であり、これを受けて幌加温泉コースの供用再開に向けた協議を関係機関と進めているところ。まだ決まったことは言えないが、仮に供用再開できたとしても、日帰りが難しくなること、山慣れした上級者向けのコースになることが想定されるため、町としては登山者の安全確保のために適切な情報発信等をしていく必要があると考えている。また、登山口のトイレについても、供用再開する場合は町で設置を行う予定である。十六ノ沢コースへ至る林道については、森林管理署内での予算確保のための材料になればという想いで、早期復旧を求める署名活動を観光協会と旅館組合で実施している。みなさんの方でも呼びかけに協力いただけるとありがたい。「来シーズン、ニペソツ山は登れるのか」という問い合わせがすでに町に来ており、人気のある山だと改めて感じている。

(山樂舎 BEAR 佐久間代表)

林道の通行止めについては、徒歩で通行する分には良いのか。

(十勝西部森林管理署東大雪支署 日野事務管理官)

法律に基づくものではないので罰則はないが、今回被災した林道には徒歩での通行も難しい箇所があり、安全確保できないため遠慮願いたい。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

我々も被災後に林道を歩いたが、路体が流出している箇所が非常に多く、一度沢に下りなければならぬような危険箇所もあるので、個人的には禁止と言ってしまった方が良くと思う。

(ひがし大雪自然ガイドセンター 河田代表理事)

同感。十六ノ沢林道については危険すぎる。

5. 閉会